

みえメディカルバレー構想
～みえヘルスケアインダストリー5.0～

令和2年3月

みえメディカルバレー推進代表者会議

目 次

第1章	みえメディカルバレー構想	1
1	みえメディカルバレー構想の目的	1
2	みえメディカルバレー構想に基づく取組	1
第2章	みえメディカルバレー構想に基づく取組の成果	2
1	第1期実施計画から第4期実施計画までの成果	2
(1)	ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化	2
(2)	医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化	3
(3)	新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出	5
2	みえメディカルバレー構想に係る経済波及効果	6
第3章	現状、課題および今後の方向性	9
1	現状・課題	9
(1)	社会経済情勢の変化と課題	9
(2)	企業アンケート調査結果から見る評価と課題	10
2	課題をふまえた今後の方向性	15
(1)	取組の必要性	15
(2)	今後の方向性	15
第4章	みえヘルスケアインダストリー5.0	17
1	めざすべき姿	17
2	4つの基本方向	17
(1)	ヘルスケア産業の連携基盤・研究開発基盤の充実・強化・活用	17
(2)	医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化	18
(3)	新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出	18
(4)	社会経済情勢の変化に伴う課題への対応	19
3	みえメディカルバレー推進代表者会議による連携・検証等	19
(1)	進捗状況の把握・連携	19
(2)	めざすべき姿や取組の基本方向の検証・見直し	19

資料編

1	みえメディカルバレー構想実施計画の推移	20
2	みえメディカルバレー構想実施体制	21
3	みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿	22
4	みえライフイノベーション総合特区地域協議会委員名簿	23
5	みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿	24
6	みえメディカルバレー構想の年表	25
7	第4期実施計画で設定した事業目標等に係る実績	44
8	みえライフイノベーション総合特区計画に掲げる数値目標の状況	46

第1章 みえメディカルバレー構想

1 みえメディカルバレー構想の目的

みえメディカルバレー構想は、医療・健康・福祉産業（ヘルスケア産業）を戦略的に振興することにより、本県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した質の高い製品やサービスを供給できる地域づくりをめざすものです。

この構想は、産学官で組織する「メディカルバレー構想策定検討委員会」（会長：三重大学学長）による検討をふまえ、平成14年2月に県が策定したものです。

【基本理念】

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

2 みえメディカルバレー構想に基づく取組

みえメディカルバレー構想では、上記検討委員会を基に設立した産学官民で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」が、構想に掲げる基本理念に基づき、めざす姿と取組の基本方向を定めた中期的な実施計画を策定し、産学官民の各主体が連携しながら製品等開発に関する様々な取組を行ってきました。

実施計画は、平成14年度から19年度を第1期（立ち上げ期）、平成20年度から22年度を、第1期で培った人的ネットワーク等を基に基盤整備の確立を図り、みえメディカルバレー構想の実現に向けた礎を築く第2期（基盤整備期）、平成24年度から27年度を、第2期で築いた基盤を活用し、様々な製品やサービスを創出すべく技術力・地域力等の充実と特区を活用したライフイノベーションの推進（※）を図る第3期（成長期）、平成28年度から令和元年度を、第3期で注力したライフイノベーションの推進により構築した製品・サービスの開発基盤を基に、成長産業であるヘルスケア産業に対して、攻めの取組を行っていくために、ターゲットを絞り、具体的、戦略的な取組を進める第4期（開花期）として実施し、計画の進捗や社会状況に応じた取組を展開してきました。

※ライフイノベーションの推進：医療・健康・福祉分野で、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことをいい、革新的な医薬品、医療機器、医療・介護技術等の研究開発の促進や関連産業の活性化をめざすものです。

第2章 みえメディカルバレー構想に基づく取組の成果

1 第1期実施計画から第4期実施計画までの成果

これまでのみえメディカルバレー構想に基づく取組において得られた成果について、第4期実施計画で規定した3つの基本方向に合わせて整理しました。

(1) ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化

① ネットワークの構築

特に顕著な成果は、産学官民連携のネットワークが構築されたことです。みえメディカルバレー構想の取組が開始されるまでは、県と高等教育機関、企業等との連携・支援は個別の案件ごとに対応していましたが、みえメディカルバレー構想に基づく産学官民連携のネットワークともなる鈴鹿医療科学大学社会連携研究センター（平成24年10月）や三重大学地域イノベーション推進機構（平成28年11月）などが整備されたことにより、企業等の事業展開を機能的、組織的に支援することが可能となり、このネットワークを活用した企業等から新たな製品やサービスが生み出されてきています。

なお、ネットワーク構築に向けた取組として、ヘルスケア産業に関わる産学官民の交流を促進するため、「メディカルバレーフォーラム」や「みえメディカル研究会」を開催してきたほか、高度なものづくり技術を持つ県内ものづくり企業のヘルスケア分野への参入および医療・福祉機器等の製品開発を促進するため、県内ものづくり企業等を対象とした「みえ医療・福祉機器ものづくりネットワーク」を創設し、活用を進めてきました。

② 国内・海外との連携交流

国内外の自治体・団体・企業等との連携強化やコンソーシアムの形成を図るため、国内で開催される学会・展示会への参加や先進的な取組を行う国内外の自治体に関する情報収集、企業や自治体等への視察などによる交流を深めました。

国内では、医療・福祉機器開発を促進するため、目的に賛同する岐阜県、広島県、福島県、東京都との広域連携に取り組むとともに、民間の展示会への共同出展などの取組を進めました。

海外連携としては、三重大学と瀋陽薬科大学との大学間協力協定の締結（平成22年2月）や、TJPO（台日産業連携推進オフィス）と三重県の「産業連携に関する覚書（MOU）」の締結（平成24年7月）、ワシントン州政府と三重県のMOUの締結（平成26年8月）などの取組を進めてきました。

③総合的な情報発信の充実

ITの活用などにより、県民に向けて、健康づくりに関する情報、薬や福祉用具などの正しい知識に関する情報等を提供しました。

特に、事業者に対し適切かつ迅速で豊富な情報提供を行うため、薬事関係の総合的情報システム「医薬品安全情報提供システム」、「三重県薬事工業情報提供システム〔P I I S〕」や、三重県ホームページ「みえメディカルバレー構想」、「みえ福祉用具産業支援ネットワーク」を構築しました。

また、みえメディカルバレー構想の概要や先駆取組事例、製品やサービスなどの成果等について、「メディカルバレー通信」や「みえライフイノベーションNEWS」などのメルマガや展示会、セミナーを活用した情報発信を行いました。

(2) 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化

①研究開発基盤の構築

四日市看護医療大学の開学（平成19年4月）、鈴鹿医療科学大学薬学部の設置（平成20年4月）や三重大学産学官連携伊賀研究拠点の設置（平成21年3月）など、ヘルスケア産業分野の高度な人材確保・育成、産学共同研究やイノベーションを生み出す基盤となる新たな知的拠点が整備されました。

また、安全で質の高い治験の実施を支援するため、平成15年度に三重大学医学部附属病院を中心に、みえ治験医療ネットワークが構築され、県域全体で大規模な治験を受け入れる体制が整備されました。

②ヘルスケア産業人材の確保・育成

ヘルスケア産業に関わる専門的知識を備えた人材を確保・育成するため、U・I・Jターンやインターンシップ、学生・社会人教育などにより地域に根ざした人材を確保・育成し、競争力ある事業活動を支援したほか、技術革新や応用技術に関する公設試験研究員の資質を高め、適切な技術支援が実施できる体制を強化しました。

また、県内企業、薬局、病院等で必要とする薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する無料職業紹介所（厚生労働省認可）で総合的な斡旋を行ったほか、三重県薬事工業会と三重県が連携し、県内薬事関係企業でのインターンシップ受入の体制を整備しました。

③みえライフイノベーション総合特区計画による推進

みえメディカルバレー構想の取組をより推進させるため、三重県では国の総合特区制度を活用することとし、医療・福祉機器や医薬品等の創出、企業や研究機関の県内への立地促進、雇用の拡大など産学官民が連携し経済の活性化をめざす取組が、「みえライフイノベーション総合特区」（以下「総合特

区」という。)として地域活性化総合特区の国指定を受けました(平成24年7月25日指定、平成24年11月30日計画認定、平成29年3月27日最終認定)。

平成24年度から平成28年度までの総合特区計画期間においては、企業等の製品開発を支援する研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)」を県内7箇所に設置しました。また、三重大学医学部附属病院が、大規模災害時における医療情報喪失防止のためのバックアップ(保全)、およびその利活用による調査・研究を目的に、県内9医療機関が保有する患者の医療情報を統合するデータベース「統合型医療情報データベース」の構築に取り組みました。

平成29年度からは、令和3年度までの5年間を計画期間とする現総合特区計画に基づき、MieLIPの各拠点が主体となって地域の企業等の様々な製品・サービスの創出支援に取り組むとともに、三重大学医学部附属病院が、企業等における医療分野の研究開発ニーズに柔軟に応えるための統合型医療情報データベースの活用に取り組んでいます。

○規制緩和の特例に向けた協議

総合特区制度に基づく特区内での規制緩和の特例措置の実現に向け、各種の要望を行いました。

要望を行った結果、次のとおり規制緩和が全国展開として実現しました。

- ・医療機器製造販売業の総括販売責任者および医療機器製造業の責任技術者の資格要件の緩和
- ・医療機器製造販売業における国内品質業務運営責任者の資格要件の緩和
- ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告を可能にする特例
- ・複数医療機関が参加した治験における倫理審査の集約化
- ・研究開発税制における総額型の恒久措置化

○総合特区支援利子補給金の活用

特区計画の推進に資する事業を実施する事業者が特区計画に基づく指定金融機関からの融資により資金調達を行う場合に、事業者の金利負担の軽減を図ることで円滑な事業実施を支援する総合特区支援利子補給金(利子補給率:0.7%以内)について、県による事業者や金融機関に対する制度の利用啓発や利子補給に必要な国への事業者推薦を行いました。令和元年12月現在の推薦案件数は、累計8件となっています。

(3) 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

①健康寿命延伸産業の創出

「健康寿命」の延伸に寄与する製品やサービスを創出するため、企業や県内医療・福祉機関、高等教育機関、市町、三重県等が連携し、疾病予防や健康管理、健康に配慮した食品やメニュー、高齢者や障がい者の生活支援などに寄与する製品・サービスの開発や実証、観光資源を活用した健康ツーリズム、スポーツを核とした健康マネジメントなどに取り組みました。

特に、複数の民間企業と亀山市、三重県が連携して平成27年度から実施している「亀山QOL支援モデル事業」は、地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、企業がプラットフォームを提供し、シルバー人材センターが窓口となりワンストップで健康管理・生活支援サービスを提供するとともに、サービス提供側のシルバー人材の就業拡大につなげる事業であり、健康寿命延伸産業の代表事例となっています。

②認知症ケア製品等の普及・開発

平成28年5月に開催された伊勢志摩サミットにおいては、認知症にやさしい地域づくりや認知症の人の生活の質の向上を可能にするようなICT・ロボット等の研究開発の重要性とその推進が表明されました。また、同年10月にポストサミットとして開催された「認知症サミット in Mie」では、医療・介護従事者や研究者、メーカー等多職種による討議が行われ、その成果であるパール宣言において、医療・介護と産業との連携の必要性が打ち出されました。

この宣言を受け、三重県では、平成29年度から医療・介護と産業の連携による認知症の人やその家族といった当事者に目を向けた製品・サービス

（認知症ケア製品等）の普及・開発の促進に取り組むこととし、当事者や医療・介護従事者等へのニーズ調査、当事者等と企業等が意見交換もできる展示・交流会を開催するとともに、具体的な製品等開発企画の創出につながるよう、当事者や介護従事者、企業等が認知症ケア製品等について議論する場を提供しました。

2 みえメディカルバレー構想に係る経済波及効果

みえメディカルバレー構想に基づく取組の県内外経済への寄与を把握するため、経済波及効果を算定したところ次のとおりとなりました。

算定は、平成14年度から30年度までの17年間の「医薬品・医薬部外品に係る製造品出荷額の増加額（概算）」、「医療機器生産金額の増加額（概算）」、「企業立地による投資額（概算）」、「みえ治験医療ネットワーク費用（概算）」、「統合型医療情報データベース事業費」の6項目に係る需要増加額を平成23年三重県地域間産業連関表（39部門表）に投入し行いました。

（単位：億円）

経済効果	県内分	県外分	合計
直接効果	1,821.8	1,235.8	3,057.6
第1次間接波及効果	571.4	2,519.5	3,090.9
第2次間接波及効果	343.9	1,082.5	1,426.4
合計（総合効果）	2,737.1	4,837.8	7,574.9
[参考]雇用創出効果（人）	19,869	33,137	53,006

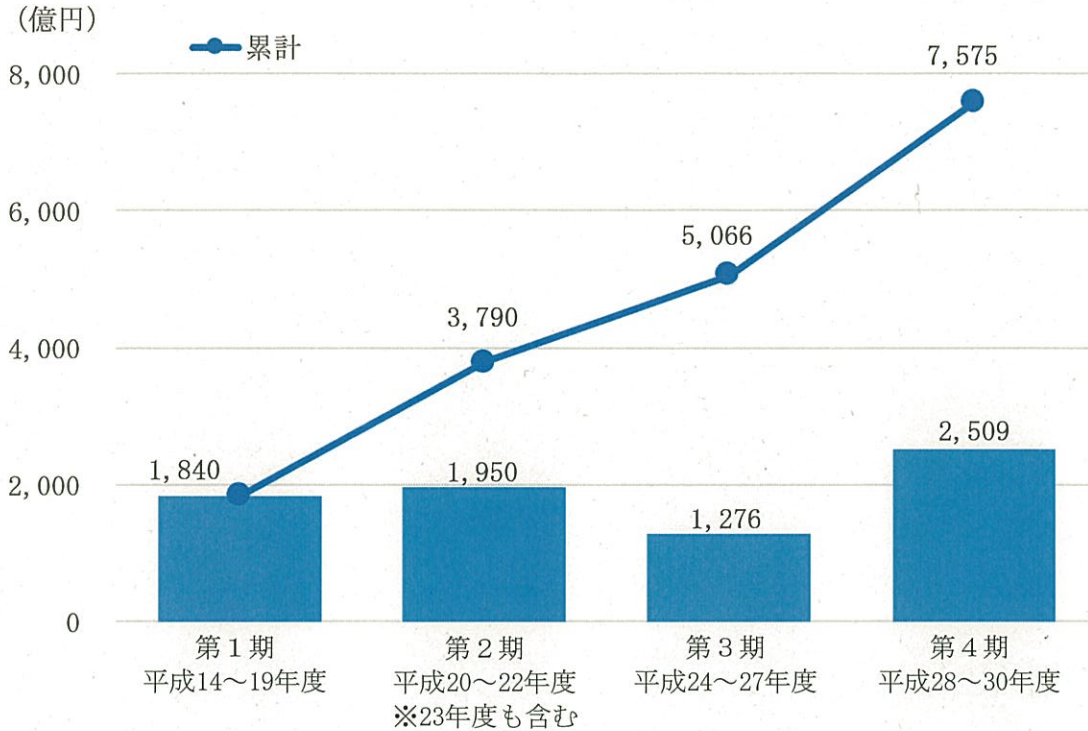
（三重県戦略企画部統計課調べ）

【備考】

○経済波及効果の算定に使用した根拠データ

	項目	需要増加額	出典
①	医薬品に係る製造品出荷額の増加額（概算）（平成14～30年度）	約1,281億円	経済産業省 工業統計調査
②	医薬部外品（化粧品を含む）に係る製造品出荷額の増加額（概算）（平成14～30年度）	約298億円	
③	医療機器生産金額の増加額（概算）（平成14～30年度）	約22億円	厚生労働省 薬事工業生産 動態統計調査
④	企業立地による投資額（概算）（平成14～30年度）	約1,704億円	三重県医療保健部ライフ ノベーション 課調べ
⑤	みえ治験医療ネットワーク治験費用（概算）（平成15～30年度）	約18億円	
⑥	統合型医療情報データベース事業費（平成26～30年度）	約2億円	
	合計	約3,325億円	

○各実施計画期間における経済波及効果



【内訳】

第1期（平成14年度から平成19年度までの6年間）（単位：億円）

経済効果	県内分	県外分	合計
直接効果	343.6	386.9	730.5
第1次間接波及効果	123.5	685.9	809.4
第2次間接波及効果	54.5	245.4	300.0
合計（総合効果）	521.6	1,318.2	1,839.9
[参考]雇用創出効果（人）	2,916	8,158	11,073

第2期（平成20年度から平成22年度までの3年間）（単位：億円）

※平成23年度分は第2期に含めて計算（4年間）

経済効果	県内分	県外分	合計
直接効果	428.1	354.1	782.3
第1次間接波及効果	140.4	677.8	818.1
第2次間接波及効果	76.9	273.0	349.9
合計（総合効果）	645.4	1,304.9	1,950.3
[参考]雇用創出効果（人）	4,348	8,643	12,990

第3期（平成24年度から平成27年度までの4年間）（単位：億円）

経済効果	県内分	県外分	合計
直接効果	412.8	115.7	528.5
第1次間接波及効果	112.9	346.4	459.4
第2次間接波及効果	88.5	199.1	287.6
合計（総合効果）	614.3	661.3	1,275.5
[参考]雇用創出効果（人）	5,365	5,378	10,743

第4期（平成28年度から平成30年度までの3年間）（単位：億円）

経済効果	県内分	県外分	合計
直接効果	637.3	379.0	1,016.3
第1次間接波及効果	194.6	809.4	1,004.0
第2次間接波及効果	124.0	365.0	489.0
合計（総合効果）	955.8	1,553.4	2,509.3
[参考]雇用創出効果（人）	7,241	10,957	18,199

※端数処理のため内訳と合計が一致しない場合があります

○用語定義

・経済波及効果

ある産業に新たに需要が発生したときに、他の産業へ連鎖的に生産が誘発されていくことで、産業連関表（国内経済において一定期間に行われた財・サービスの産業間取引を一つの行列（マトリックス）に示した統計表）を用いて算定する。

・直接効果

新たな需要増加のうち県内（及び他県）の生産活動に影響を及ぼす額。

・第1次間接波及効果

「直接効果」によって生産が増加した産業で必要となる原材料等を満たすために、新たに発生する生産額。

・第2次間接波及効果

「直接効果」と「第1次間接波及効果」によって増加した雇用者所得のうち、消費に回った分により新たに発生する生産額。

・雇用創出効果

経済波及効果分析で増加した生産額をもとに算定される新規雇用者数。生産額が増加すれば、ある一定の割合で雇用者も増加するという前提に基づき、産業ごとに生産額が百万円増えると〇〇人雇われるという係数（雇用係数）を用いて算定しており、実際の雇用者数を積み上げた数字ではない。

第3章 現状、課題および今後の方向性

1 現状・課題

第4期実施計画終了後のみえメディカルバレー構想の取組の方向性について検討するため、本県ヘルスケア産業を取り巻く社会経済情勢について、第4期実施計画の策定時点（平成27年度）と令和元年度現在の状況を比較し、課題を整理するとともに、ヘルスケア分野への県内企業の参入状況や同分野における課題等を把握するため、県内企業等1,000社を対象にアンケート調査を実施しました。

(1) 社会経済情勢の変化と課題

社会経済情勢の変化のうち、ヘルスケア産業分野の企業にも大きな影響を及ぼす外的要因を人口動態と技術革新の進展の観点から、「人口減少・超高齢社会の進行と若者の県外への流出」、「第4次産業革命による産業・就業構造の大転換」の2項目に整理しました。こうした情勢は、第4期実施計画の策定時点（平成27年度）においてもすでに顕在化していましたが、令和元年度現在ではさらに加速しています。

また、これらの項目は、概ね10年先を見据えた産業政策のあるべき方向性を示すため、三重県が平成30年11月に策定した「みえ産業振興ビジョン」においても、「今後、三重県経済が避けて通ることのできない潮流」として提示されています。

①人口減少・超高齢社会の進行と若者の県外への流出

三重県の総人口は、全国より1年早い平成19年をピークに減少が続いています。平成30年10月1日現在の人口は179万1千人となり、11年連続で減少しました。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によると、令和27（2045）年には143万人まで減少することが見込まれており、平成30年からの減少率20.1%は、全国平均の14.3%を上回っています。

また、三重県の平成30年の老年人口（65歳以上）は52万7千人で、老年人口比率は29.4%と過去最高を記録しています。社人研の推計では令和27（2045）年には54万7千人と38.3%に増加すると予測されており、これは同年における全国の老年人口比率36.8%を上回る比率となります。

さらに、三重県の転入・転出については、平成20年以降は転出超過が続いており、近年4千人前後で推移していた転出超過数が令和元年には6千人を超えるなど、厳しい状況となっています。年齢別では、転出超過数の約6割が15歳から29歳であり、若者の県外流出が続いています。

人口減少、特に若者の減少は、企業の人材確保等労働供給の停滞をまねき、企業等の競争力や地域の活力を低下させます。また、急激な高齢化は、新たな社会的ニーズの変化に影響を及ぼします。こうした状況は、本県経済の持続的な発展を図る上での大きな懸念となることから、若者にとって魅力がある雇用の創出や高齢者の活躍の場の創出、健康長寿社会の形成に資するヘルスケア産業の創出など、ヘルスケア産業人材の確保および発掘・育成に向けたさまざまな取組が必要です。

②第4次産業革命による産業・就業構造の大転換

I o T・ビッグデータ・A I・ロボット等をはじめとする第4次産業革命に伴う急速な技術革新などにより、これまで実現不可能と思われてきた社会の実現が可能になるとともに、産業構造や就業構造が大きく転換する可能性があります。さらに、新しいサービス・製品・ビジネスモデル創出の可能性が広がるとともに、I o T・A I等の新たな情報技術を有効に活用し、新しいアイデアを具現化すれば、都市・地方といった場所や、組織の規模を問わず成功をもたらします。

ヘルスケア産業分野においても、これらの潮流に乗ることで、I o T・ビッグデータ・A Iなどを活用した新たな製品・サービスの創出や生産性の向上、人材の育成のほか、新たな知恵や知識、技術を国内外から積極的に導入することによる新しい価値の創出に取り組むことが必要です。

(2) 企業アンケート調査結果から見る評価と課題

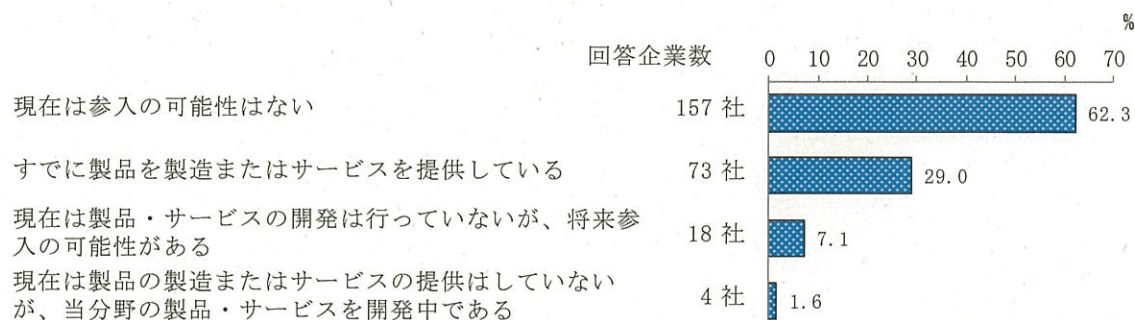
三重県（ライフイノベーション課）では、第4期実施計画終了後のみえメディカルバレー構想の取組の方向性について検討するため、平成30年度に県内企業等1,000社を対象とするアンケート調査を実施しました（調査期間：平成31年1月7日～2月8日）。

その結果、みえメディカルバレー構想の取組については、一定の評価が得られたものの、今後も継続した取組が必要とされていることや、残された課題への対応も求められていることが確認できました。

①企業アンケート調査結果の概要

ヘルスケア分野への参入状況について質問したところ、252社の内、参入済と回答した企業が73社（29%）、将来参入の可能性があると回答した企業が18社（7%）、開発中と回答した企業が4社（2%）でした。（図1）

図1 ヘルスケア分野への参入状況（有効回答：252社）

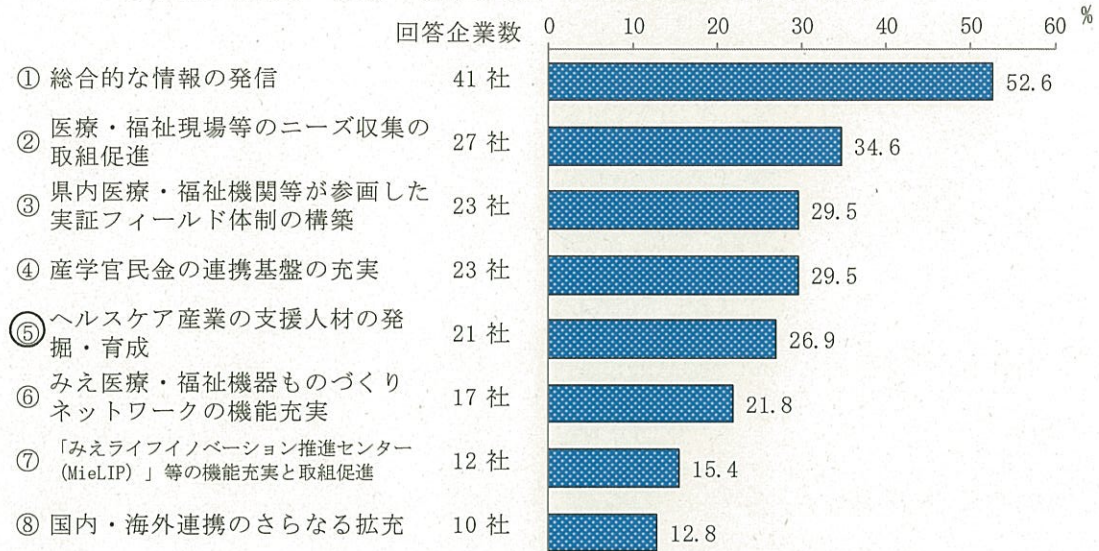


この95社を対象に、第4期実施計画で実施してきた17項目の中で、今後も産学官民の各主体が取り組むべき項目を質問（複数回答）したところ、取り組むべきであると回答した企業が1割を下回る項目はなく、全ての取組が広く今後も必要であると認識されていることが確認できました。（図2）

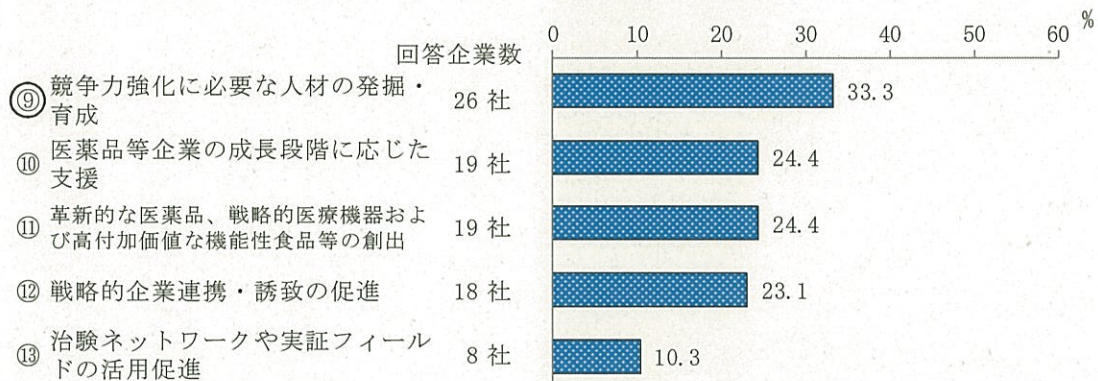
また、社会経済情勢の変化に伴う課題として整理した人材の発掘・育成にかかる3項目（図2⑤⑨⑮）はいずれも3割前後の回答があり、重要な取組と認識されていることが確認できました。

図2 今後も産学官民の各主体が取り組むべき項目（有効回答：78社）

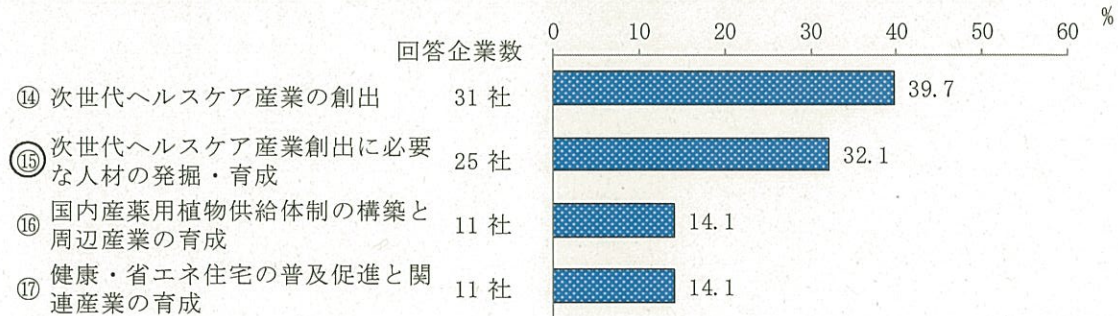
○ヘルスケア産業（医療・健康・福祉産業）の連携基盤の充実・強化



○医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化



○新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出



②取組への評価

①のとおり、第4期実施計画で実施してきた全ての取組が広く評価されていることが確認できました。

中でも、みえメディカルバレー構想に基づく取組の大きな成果である産学官民連携のネットワークの構築に関連し、外部機関との連携実績について質問したところ、実績があると回答した企業は93社の内40社（43%）で、平成27年度に実施した前回調査の7%から大幅に上昇しました。（図3-1）

また、実績があると回答した40社の内、外部機関との連携により成果が得られたと回答した企業は32社（80%）にのぼり、前回調査の43%から大幅に上昇しました。産学官民の連携が進展し、新しい成果につながっていることが確認できました。（図3-2）

図3-1 外部機関との連携実績の有無（有効回答：93社）

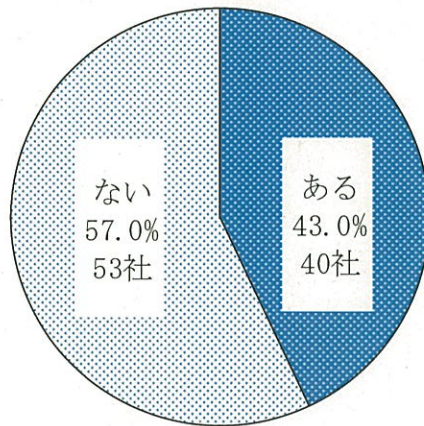
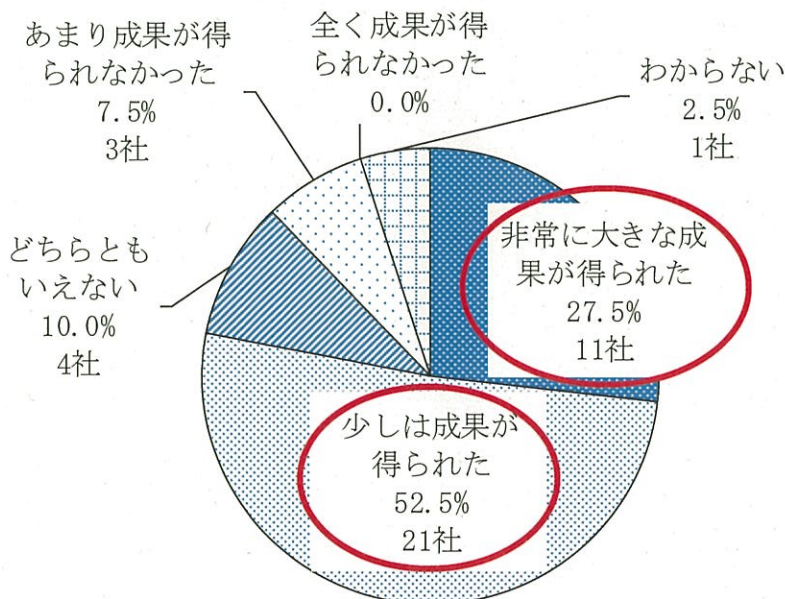


図3-2 外部機関との連携による成果（有効回答：40社）



③今後の課題

①のとおり、第4期実施計画で実施してきた取組を今後も継続することが必要であると認識されていることが確認できました。

また、社会経済情勢の変化に伴う課題として整理した「人材確保」に係る現状について質問したところ、人材を想定どおりに採用できていると回答のあった企業は93社の内37社(40%)でした。(図4-1)

特に、採用に際して、「①応募する人の数が少ない」が58社(67%)、「②求める技術や知識を持った人が少ない」が40社(47%)、「③求める資格を持った人が少ない」が16社(19%)と、人材不足の解決が大きな課題となっていることが確認できました。(図4-2)

図4-1 採用状況(有効回答:93社)

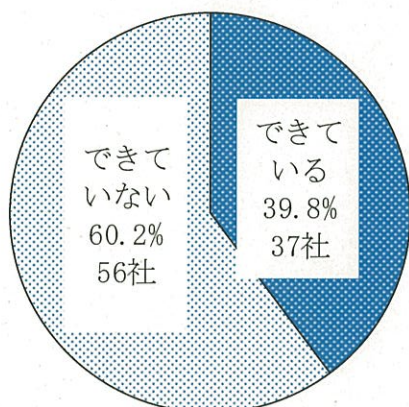
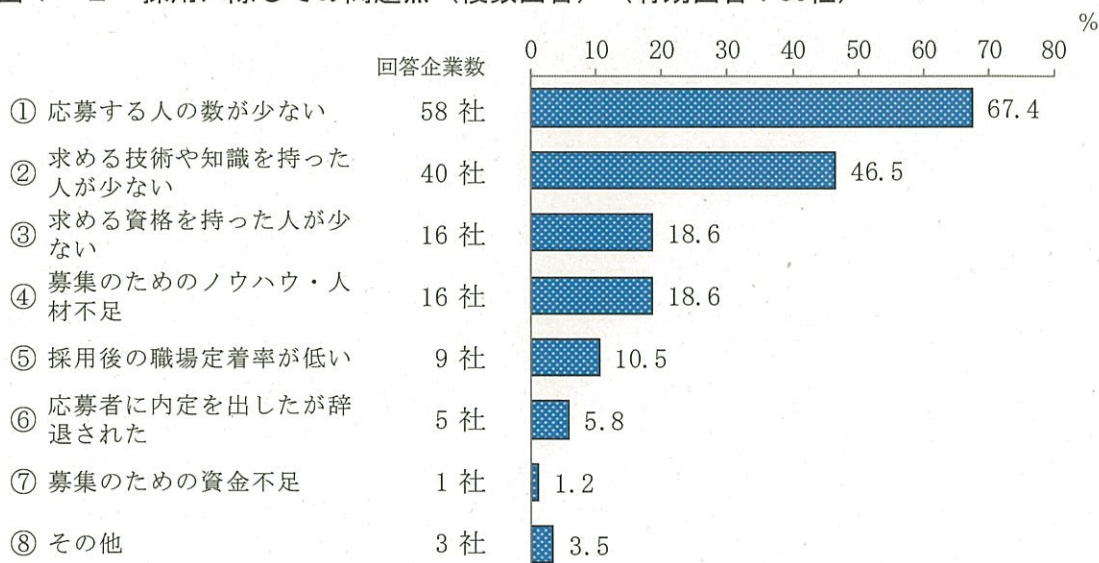


図4-2 採用に際しての問題点(複数回答)(有効回答:86社)



2 課題をふまえた今後の方向性

(1) 取組の必要性

第4期実施計画の策定時点（平成27年度）と比較し、本県産業を取り巻く社会経済情勢が大きく変化する中、ヘルスケア産業分野においても、若者にとって魅力のある雇用の創出や高齢者の活躍の場の創出、健康長寿社会の形成に資するヘルスケア産業の創出、新たな知恵や知識、技術を取り込むことによる新しい価値の創出、一人ひとりの能力の向上や、誰もが活躍の場を得られる環境づくりへの対応など、取り組むべきさまざまな課題が生じてきており、みえメディカルバレー構想の基本理念の実現に向けては、これらの課題に着実に取り組むことが必要となっています。

こうした中、みえメディカルバレー構想の成果を継続し、さらに発展させていくためには、今後も産学官民が連携し、取組を継続・発展させていくことが必要となっています。

また、これまでは、各実施主体による具体的な取組を列記した概ね4年間の実施計画を策定するとともに、各実施主体はこの計画に基づき具体的な取組を進めてきたところですが、近年の短期間に大きく変化する社会経済情勢の中では、策定当初に計画した具体的な取組と実際に実施する取組との間に乖離が生じる可能性があります。このような状況においては、変化に対応できる柔軟な仕組みの構築が必要となります。

(2) 今後の方向性

第4期実施計画では、めざす姿の実現に向けて3つの基本方向（①ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化、②医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化、③新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出）により取組を展開してきました。

平成30年度実施の県内企業等を対象としたアンケート調査結果からは、みえメディカルバレー構想の取組の成果については一定の評価が得られつつも、今後も継続した取組が必要とされていることや、残された課題への対応が求められていることから、第4期実施計画における3つの基本方向は今後の取組においても踏襲し、継続することとします。

さらに、今後顕在化するヘルスケア産業分野におけるさまざまな課題にも対応するため、3つの基本方向に加えて、「社会経済情勢の変化に伴う課題への対応」を新たに追加します。

また、みえメディカルバレー構想の策定当初に位置付けた4期にわたる実施計画期間が終了し、新たなステージを迎えるにあたり、産学官民の各実施主体がめざすべきヘルスケア産業の姿や取組の基本方向を、概ね10年先を見据えた中長期的な視点で提示するとともに、各実施主体が共通認識を持ち

つつ、それぞれの強みを生かし、独自性を発揮して主体的に取組を推進できる柔軟な仕組みを構築することとします。

これらの新たな推進方策を、「みえヘルスケアインダストリー5.0」※と称します。

※「5.0」とは、産学官民の連携によるヘルスケア産業振興の取組の成果が第4期実施計画”みえヘルスケアインダストリー4.0”で「開花」し、次の新たなステージへと進む（4.0→5.0）ことに加え、国が推進する新たな社会「Society5.0」をイメージしています。

第4章 みえヘルスケアインダストリー5.0

1 めざすべき姿

みえメディカルバレー構想の基本理念とこれまでの取組をふまえ、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民連携の支援基盤等の強みを発揮し、ライフイノベーションを推進することにより、新たな健康需要や社会経済情勢の変化に対応したヘルスケア分野の優れた製品・サービスの創出、県民の豊かさに貢献しています。

2 4つの基本方向

みえヘルスケアインダストリー5.0では、めざすべき姿の実現に向けた取組の基本方向を次の4つに整理します。広く産学官民の各実施主体は、この4つの基本方向についての共通認識を持ちながら、それぞれの強みを生かし、独自性を発揮して主体的に取組を展開していきます。

この取組においては、人材や技術、地域の資源、ビジネスなどのさまざまな要素について、既存のものだけでなく新たなものを積極的に取り込み、それらを組み合わせたり繋ぎ直したりすることで、新たな価値の創出につなげる視点も持ちながら推進します。

なお、以下のそれぞれの基本方向に記載する具体的な取組例は、参考事例であり、これにあてはまらない取組についても、広くみえヘルスケアインダストリー5.0に基づく取組として捉え、産学官民の各実施主体は積極的にそれぞれの取組を推進することとします。

(1) ヘルスケア産業の連携基盤・研究開発基盤の充実・強化・活用

三重県から世界に発信するヘルスケア分野の製品やサービスを創出するため、その創出に寄与する実証環境の整備やM i e L I Pによる取組の支援、国内外企業、研究機関等とのネットワーク拡充など事業環境の充実・強化を図ります。

また、社会情勢の変化に対して的確に対応するため、研究開発支援体制や取組に対する評価体制を充実します。

【産学官民による具体的な取組例】

- ・総合的な情報の発信
- ・県内医療・福祉機関等が参画した実証フィールド体制の構築
- ・医療・福祉現場等ニーズ収集の取組促進
- ・みえ医療・福祉機器ものづくりネットワークの機能充実
- ・「みえライフイノベーション推進センター (M i e L I P)」等の機能充実と取組の支援
- ・国内・海外連携の充実・強化

- ・産学官民の連携基盤の充実
- ・知的財産権の保護

(2) 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化

医薬品や化粧品、医療機器、機能性食品等の企業が、より高次の成長段階で活躍できるよう支援するとともに、医療ビッグデータやものづくり技術など本県が有するさまざまなポテンシャルの活用、国による規制緩和の特例・財政的支援など総合特区制度の活用、国内外の企業や研究機関等との連携・誘致を促進することにより、競争力を強化し、世界に通じる革新的な製品を創出するとともに、市場の拡大を図ります。

【産学官民による具体的な取組例】

- ・医薬品等企業の成長段階に応じた支援
- ・戦略的企業連携・誘致の促進
- ・革新的な医薬品、戦略的医療機器および高付加価値な機能性食品等の創出
- ・実証フィールドの活用促進
- ・地域資源を活用した製品・サービスの創出

(3) 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

医療・介護などの公的保険サービスに加えて、潜在的な健康需要を満たす三重県発の次世代ヘルスケア産業を創出するため、企業等が有する技術、サービスや県内地域資源、IoTやビッグデータなどの活用、産学官民で構成する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」(※)との連携等により、人々の健康増進に向けた行動変容と持続的なビジネスモデルの確立につながる製品やサービスの開発や実証フィールドを活用した検証等を行います。

【産学官民による具体的な取組例】

- ・健康寿命延伸産業・認知症ケア製品等の創出
- ・国内産薬用植物供給体制の構築
- ・健康・省エネ住宅の普及促進

※地域版次世代ヘルスケア産業協議会：経済産業省が、地域関係者（自治体、医療・介護機関、民間事業者等）の連携を促進し、地域ニーズをふまえたヘルスケア産業の創出を後押しするため、各地域への設置を促進している協議会。三重県では、みえライフイノベーション総合特区地域協議会を地域版次世代ヘルスケア産業協議会として位置付けています。

(4) 社会経済情勢の変化に伴う課題への対応

人口減少・超高齢社会の進行と若者の県外への流出、さらにはI o T・ビッグデータ・A I・ロボット等をはじめとする第4次産業革命に伴う急速な技術革新による産業・就業構造の大転換など、本県産業を取り巻く社会経済情勢が大きく変化する中、このような変化に伴うさまざまな課題に対応するため、ヘルスケア産業の持続的な発展や、県民の健康と福祉の向上につながる取組を実施します。

【産学官民による具体的な取組例】

- ・社会経済情勢の変化に対応したヘルスケア産業人材の確保および発掘・育成（若者に魅力のある仕事の創出、円滑な事業承継の促進など）
- ・I o T・ビッグデータ・A Iなどを活用した新たな製品・サービスの創出

3 みえメディカルバレー推進代表者会議による連携・検証等

(1) 進捗状況の把握・連携

みえメディカルバレー構想を推進するために設置したみえメディカルバレー推進代表者会議は、めざすべき姿の実現に向け、4つの基本方向に基づき産学官民の各実施主体が主体的に取り組むそれぞれの事業について、情報共有を行うことで全体の進捗状況を把握するとともに、各実施主体相互の連携を促進します。

(2) めざすべき姿や取組の基本方向の検証・見直し

みえヘルスケアインダストリー5.0は、概ね10年先を見据えた中長期的な視点で、めざすべきヘルスケア産業の姿や取組の基本方向を提示するものですが、10年を経過しない時点であっても、流動する社会経済情勢などをふまえた検証を行うとともに、必要があれば見直しを行うこととします。

資料編

1 みえメディカルバレー構想実施計画の推移



2 みえメディカルバレー構想実施体制

■ みえメディカルバレー構想

みえメディカルバレー 推進代表者会議
(協議事項) ・みえメディカルバレー構想の基本方針に関すること ・関係機関、組織間の調整および連携に関すること
(構成) 7大学3高専、三重大学医学部附属病院、 ㈱三重TLO、三重県医師会、三重県歯科医師会、 三重県薬事工業会、食品企業、7金融機関、 行政機関等

■ みえライフイノベーション総合特区

みえライフイノベーション 総合特区地域協議会
(協議事項) ・みえライフイノベーション総合特区の推進に関すること ※地域版次世代ヘルスケア産業協議会として位置づけ
(構成) みえメディカルバレー推進代表者会議構成団体

みえメディカルバレー 企画推進会議
(協議事項) ・みえメディカルバレー構想の企画に関すること ・みえメディカルバレー構想の進捗管理に関すること
(構成) 大学・高専、県内企業、 中部経済産業局等関係者

みえライフイノベーション推進 センター連絡会議 (MieLIP 連絡会議)
(協議事項) ・総合特区の事業計画及び連絡調整に関すること ・MieLIP の調整及び連携に関すること
(構成) 各 MieLIP 実施主体及び関係機関

みえ医療・健康・福祉産業国際交流推進会議
(協議事項) 医療・健康・福祉産業の国際交流の推進に関すること
(構成) みえメディカルバレー推進代表者会議構成団体

■ 県庁内組織

みえライフイノベーション総合特区推進本部
(協議事項) みえライフイノベーション総合特区推進のための県庁内の連携に関すること
(構成) 知事、副知事、危機管理統括監、庁内関係所属部長

みえメディカルバレー庁内連絡会議
(協議事項) メディカルバレー推進のための県庁内の連携に関すること
(構成) 庁内関係所属課長

※事務局は全て三重県医療保健部ライフイノベーション課

3 みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿

【令和2年3月12日現在】
(順不同 敬称略)

区分	所属等	役職	氏名
大学等	三重大学	学長	駒田 美弘
	鈴鹿医療科学大学	学長	豊田 長康
	三重県立看護大学	学長	菱沼 典子
	四日市大学	学長	岩崎 恭典
	四日市看護医療大学	学長	丸山 康人
	鈴鹿大学	学長	市野 聖治
	皇學館大学	学長	河野 訓
	鈴鹿工業高等専門学校	校長	林 祐司
	鳥羽商船高等専門学校	校長	林 祐司
	近畿大学工業高等専門学校	校長	村田 圭治
	三重大学医学部附属病院	院長	伊佐地 秀司
	株式会社三重ティーエルオー	代表取締役社長	飯田 和生
団体・企業	公益社団法人三重県医師会	会長	松本 純一
	公益社団法人三重県歯科医師会	会長	大杉 和司
	一般社団法人三重県薬剤師会	会長	西井 政彦
	公益社団法人三重県看護協会	会長	西宮 勝子
	一般社団法人三重県作業療法士会	会長	田中 一彦
	三重県薬事工業会	会長	松浦 信男
	辻製油株式会社	代表取締役会長	辻 保彦
	公益財団法人三重県産業支援センター	理事長	岡村 昌和
	株式会社百五銀行	取締役頭取	伊藤 歳恭
	株式会社三重銀行	取締役頭取	渡辺 三憲
	株式会社第三銀行	取締役頭取	岩間 弘
	株式会社商工組合中央金庫	津支店長	青木 隆幸
	桑名三重信用金庫	理事長	中澤 康哉
	北伊勢上野信用金庫	理事長	市川 克美
	紀北信用金庫	代表理事	森浦 克好
行政	鈴鹿市	市長	末松 則子
	津市	市長	前葉 泰幸
	伊賀市	市長	岡本 栄
	鳥羽市	市長	中村 欣一郎
	尾鷲市	市長	加藤 千速
	多気町	町長	久保 行央
	中部経済産業局地域経済部	部長	閑念 磨聡
	三重県医療保健部	部長	福井 敏人
	三重県雇用経済部	部長	村上 亘
企画推進 会議代表	鈴鹿医療科学大学	薬学部特任教授・社会 連携研究センター長	鈴木 宏治
顧問	—	—	—

4 みえライフイノベーション総合特区地域協議会委員名簿

【令和2年3月12日現在】
(順不同)

区 分	所 属 等	役 職
大学等	三重大学	学長
	鈴鹿医療科学大学	学長
	三重県立看護大学	学長
	四日市大学	学長
	四日市看護医療大学	学長
	鈴鹿大学	学長
	皇學館大学	学長
	鈴鹿工業高等専門学校	校長
	鳥羽商船高等専門学校	校長
	近畿大学工業高等専門学校	校長
	三重大学医学部附属病院	院長
	株式会社三重ティーエルオー	代表取締役
団体・ 企業	公益社団法人三重県医師会	会長
	公益社団法人三重県歯科医師会	会長
	一般社団法人三重県薬剤師会	会長
	公益社団法人三重県看護協会	会長
	一般社団法人三重県作業療法士会	会長
	三重県薬事工業会	会長
	辻製油株式会社	代表取締役
	公益財団法人三重県産業支援センター	理事長
	株式会社百五銀行	代表者又は代表者の指名する者
	株式会社三重銀行	代表者又は代表者の指名する者
	株式会社第三銀行	代表者又は代表者の指名する者
	株式会社商工組合中央金庫	代表者又は代表者の指名する者
	桑名三重信用金庫	代表者又は代表者の指名する者
	北伊勢上野信用金庫	代表者又は代表者の指名する者
紀北信用金庫	代表者又は代表者の指名する者	
行 政	鈴鹿市	市長又は市長の指名する者
	津市	市長又は市長の指名する者
	伊賀市	市長又は市長の指名する者
	鳥羽市	市長又は市長の指名する者
	尾鷲市	市長又は市長の指名する者
	多気町	町長又は町長の指名する者
	中部経済産業局地域経済部	部長
	三重県医療保健部	部長
	三重県雇用経済部	部長
企画推進 会議代表	みえメディカルバレー企画推進会議	会長
顧 問	—	—

5 みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿

【令和2年2月19日現在】
(順不同 敬称略)

区分	氏名	所属等
大学等	諏訪 克之	三重大学人文学部准教授
	西村 訓弘	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授・副学長
	田丸 智巳	三重大学医学部附属病院臨床研究開発センター教授
	湊藤 啓広	三重大学大学院医学系研究科教授
	勝崎 裕隆	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
	富田 昌弘	三重大学大学院工学研究科教授
	矢野 賢一	三重大学大学院工学研究科教授
	松井 純	株式会社三重ティーエールオー取締役副社長
	長村 洋一	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授・副学長
	畠中 泰彦	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授
	鈴木 宏治	鈴鹿医療科学大学薬学部特任教授・社会連携研究センター長
	岩島 誠	鈴鹿医療科学大学薬学部教授
	岡 良浩	四日市大学総合政策学部准教授
	豊島 泰子	四日市看護医療大学看護学部特任教授
	大西 範和	三重県立看護大学看護学部教授
	榎本 悠孝	皇學館大学現代日本社会学部准教授
	白井 達也	鈴鹿工業高等専門学校機械工学科教授
	江崎 修央	鳥羽商船高等専門学校研究主事制御情報工学科教授
	齊藤 公博	近畿大学工業高等専門学校教授・地域連携テクノセンター長
企業等	植野 健司	大日本住友製薬株式会社 生産本部副本部長 兼 鈴鹿工場長
	松岡 収	中外医薬生産株式会社 研究開発本部長
	上村 秀人	ロート製薬株式会社 取締役 兼 上野テクノセンター長
	前山 薫	御木本製薬株式会社 取締役
	落合 穰	株式会社中部メディカル 代表取締役社長
	大久保 勉	太陽化学株式会社 ニュートリション事業部研究開発グループ参事
	濱口 高明	万協製薬株式会社 開発部部长
	籠谷 和弘	辻製油株式会社 辻H&Bサイエンス研究所 次長
	濱口 昭弘	井村屋スタートアッププランニング株式会社 常務取締役 戦略企画部長
その他	大橋 康史	中部経済産業局地域経済部次世代産業課ヘルスケア産業室長
	高橋 正浩	株式会社百五総合研究所 企画部長
	長岡 敏	三重県医療保健部ライフイノベーション課長

6 みえメディカルバレー構想の年表

平成14年3月まで

平成7年～9年	薬事工業関係企業20社と知事との懇談会（後の「さわやかトーク」）を開催
平成8年4月	GMP研究会設置、薬事企業向け高度化研修会などの開始 県外薬事指導所のベンチマーキング調査（～12月）
平成11年3月	薬事工業技術基盤整備事業基礎調査（薬事工業振興計画）
平成12年4月	薬事工業技術サポートネットワーク事業開始
平成12年12月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けた公設試の機能強化、連携のあり方検討調査（薬事工業研究開発アクションプログラム）
平成13年3月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けたアクションプログラム検討調査 三重県議会新産業創造特別委員会委員長報告（みえメディカルバレー推進を提言）
平成13年4月	科学技術振興センター工業研究部に医薬品研究センター設置
平成14年2月	㈱三重TLOが三重大学内で創業 みえメディカルバレー構想策定

平成14年度（2002年度）

平成14年4月	県健康福祉部にメディカルバレー推進グループ設置 みえメディカルバレー推進事業開始
平成14年7月	みえメディカル研究会発足 メディカルフォーラム in 伊賀を開催
平成14年8月	みえメディカルバレー企画推進委員会設置
平成14年9月	メディカルバレーフォーラム2002を開催
平成14年10月	みえテクノエイドセンターを三重県身体障害者総合福祉センターに設置
平成14年11月	みえメディカルバレー代表者会議設置 医療・健康・福祉分野欧州調査団派遣（スウェーデン、デンマーク、ドイツ、イギリス）
平成14年12月	三重大学と尾鷲市が相互友好協力協定締結
平成15年3月	上野市（現伊賀市）、名張市、三重大学などにより伊賀地域産業ステージ活性化計画策定

平成15年度（2003年度）

平成15年4月	三重大学生命科学研究支援センター設置
	みえ治験医療ネットワークの構築決定、みえ治験医療ネットワーク推進委員会・同ワーキンググループ設置
平成15年6月	みえメディカルバレー構想新機軸展開事業開始
	みえ治験医療ネットワーク構築支援、天然資源活用型バイオ産業創出、液晶技術応用促進事業の3リーディングプロジェクト開始
	みえメディカル研究会総会を開催
平成15年9月	メディカルバレーフォーラム2003を開催
	みえメディカルバレー国際交流推進連絡会議設置
平成15年10月	ドイツ・バイオメディカル産業ミッション（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州、ブランデンブルグ州）（ジェットロ ローカル・トゥ・ローカル産業交流事業））
	海外バイオクラスター（ドイツバイオコンバレー*）との交流開始 *バイオコンバレー：旧東ドイツ地域に位置するメクレンブルグ・フォアポメルン州のバイオコンバレーは、州政府や企業が出資したバイオコンバレー社が中心となり、ロストック大学やグレイフスバルトバルド大学との連携により、医療・農業・海洋の3つのバイオ産業クラスター形成を目指している。2002年には、スカンジナビア、バルト諸国、ドイツ等の12カ国が参加するバイオクラスターネットワークにも参画している。
平成15年11月	津市サイエンスシティ（工業団地）が複合型産業集積特区認定
	NPO法人みえ治験医療ネット設立
平成16年1月	みえ新産業創造ファンド設立
平成16年3月	三重大学キャンパスインキュベータ竣工
	鈴鹿市がNTT跡地利用転換計画（健康・福祉サイエンスパーク）策定

平成16年度（2004年度）

平成16年4月	三重大学が国立大学法人化
	三重大学創造開発研究センター設置・知財総括室等設置
	バレー構想関連企業等立地促進補助金制度創設
	みえ治験医療ネットワーク本格稼働
平成16年5月	伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会設立
	関西バイオ推進会議（大阪商工会議所、関西経済連合会等）に 参画
	ドイツ・バイオコンバレー訪問団（メクレンブルグ・フォアポメル ン州の経済省大臣、バイオコンバレー会長ほか）来県
平成16年6月	メディカルバレーとバイオコンバレーが協力協定を締結（ドイ ツ）
	みえメディカルバレー創成計画・同創成特区が地域再生計画・ 地域構造改革特区に認定
平成16年7月	みえメディカル研究会総会を開催
	紀北地域振興計画策定事業開始（経済産業省電源地域振興指導 事業）
平成16年9月	都市エリア産学官連携促進事業（伊勢湾岸エリア）開始
	メディカルバレーフォーラム2004を開催
平成16年10月～ 11月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション（ドイツ（ベルリン、メ クレンブルグ・フォアポメル州）、スウェーデン、デンマーク） スカンバルトバイオリージョン（バイオコンバレー、メディコン バレー*など）との連携へ発展 *メディコンバレー：デンマークとスウェーデン国境にまたがるオーレンス 地域の医療・バイオ・食品・IT等の企業、研究所、大学等で構成される産業 クラスター
平成16年10月	（株）三重 TLO と iPAL（ドイツ・ベルリン TLO）が業務提携覚書を 締結
	（株）三重 TLO と PVA-MV AG（ドイツ・メクレンブルグ・フォア ポメルン州 TLO）が業務提携覚書を締結
	三重大学医学部とロストック大学医学部が研究協力協定を締結 （ドイツ）
平成16年12月	日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで5 位
平成17年3月	日独再生医療セミナーを三重大学で開催

平成17年度 (2005年度)

平成17年4月	みえメディカルバレー知的財産活用促進事業開始
平成17年5月	GNI 投資環境視察ツアー (米国、欧州、中国等企業など)
平成17年6月	津市サイエンスシティが複合型産業集積特区変更認定
平成17年7月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム*が経済産業省サービス産業創出支援事業 (基本計画策定事業) を採択 *伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会の下部組織
平成17年8月	メディカルバレーフォーラム2005を開催 東海バイオものづくり創成プロジェクト (中部経済産業局・NPOバイオものづくり中部) との協働体制確立
平成17年9月	バイोजアパン2005への共同出展・ジョイントセミナーを開催 (バイオコンバレー、三重大学、三重TLO、津市など) ドイツ・バイオコンバレー訪問団来県 第1回日独再生医療カンファレンスを三重大学で開催 日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで6位
平成17年10月	中国上海 China Pharmへ出展、医療・健康・福祉産業ミッション (中国上海・南京) 紀北調理師会による「熊野古道薬草弁当」商品化
平成17年11月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション (ドイツ (ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州) スウェーデン、デンマーク) (株)三重TLOとルンドTLO Forskarpatent i Syd (スウェーデン) が業務提携覚書を締結 メディコンバレー (スウェーデン、デンマーク) アカデミー代表者来県
平成17年12月	三重大学医学部附属病院にオーダーメイド医療部設置
平成18年2月	GNI セントレア企業招聘事業 (中国、ドイツ等企業) 三重大学臨床研究開発センター設置
平成18年3月	紀北地域振興計画策定調査終了 (経済産業省電源地域振興指導事業) 三重県内のバイオベンチャー企業20社に

平成18年度（2006年度）

平成18年4月	<p>メディカルバレー創造的人材育成事業開始</p> <p>BIO2006（米国 シカゴ）へ三重大学、三重TLO、ベンチャー企業などとともに共同出展</p>
平成18年6月	みえメディカル研究会総会を開催
平成18年7月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアムが経済産業省サービス産業創出支援事業（コンソーシアム機能強化事業）を採択
平成18年8月～ 平成19年3月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェトロに委託）
平成18年9月	<p>メディカルバレーフォーラム2006を開催</p> <p>バイोजパン2006への共同出展（バイオコンバレー、三重大学、三重TLO、津市など）</p>
平成18年10月	日経バイオビジネス誌の2006年度全国バイオクラスターランキングで4位
平成18年11月	<p>医療・健康・福祉産業ミッション（中国上海・蘇州・南京・北京）</p> <p>三重県健康福祉部薬務食品室と中国江蘇省食品薬品监督管理局が連絡窓口設置確認書を締結</p> <p>三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市招務服務中心が連絡窓口設置確認書を締結</p> <p>三重県健康福祉部薬務食品室と中国上海市外国投資促進中心投資促進部が連絡窓口設置確認書を締結</p> <p>みえ福祉用具フォーラム2006を開催</p>
平成19年2月	GNI セントレア企業招聘事業（中国企業）
平成19年3月	第2回日独再生医療カンファレンスをロストック大学で開催

平成19年度(2007年度)

平成19年4月	メディカルバレー知的拠点支援事業開始
	健康福祉ビジネスサポート事業開始
	四日市看護医療大学開学
	ジェットロ RIT 事業採択決定
	三重医療・健康・福祉産業クラスター事業開始
平成19年5月	BIO2007 ボストン参加 (ポスター展示)
	みえメディカルバレー構想見直し検討開始
平成19年6月	三重大学と鈴鹿医療科学大学が包括的連携に関する協定を締結
	全国産学官連携会議 (京都) に三重大学、津市が共同出展
	みえメディカル研究会総会を開催
	国際バイオエキスポ (東京) にNPO バイオものづくり中部と共同出展
平成19年7月～ 平成20年3月	バイオコンバレー企業動向調査 (ジェットロに委託)
平成19年8月	薬学生インターンシップ受入 (1名)
	薬学生就職ガイダンスを薬剤師会、薬事工業会と共催
平成19年9月	メディカルバレーフォーラム 2007 を開催
	バイオジャパン 2007 への共同出展 (三重大学、津市、三重TLO、バイオコンバレー)
平成19年10月	全国バイオクラスター交流会参加 (大阪)
	医療・健康・福祉産業ミッション (中国南京・瀋陽)
	三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市食品薬品监督管理局が連絡窓口設置確認書を締結
	三重県医療・健康・福祉産業ミッション団と中国瀋陽市瀋陽薬学会が連絡窓口設置確認書を締結
	三重県健康福祉部薬務食品室と中国瀋陽市食品薬品监督管理局が連絡窓口設置確認書を締結
平成19年11月	三重大学産学官連携セミナーin伊賀を開催
	みえメディカル研究会統合医療研究会設置
平成19年12月～ 平成20年1月	東海地区薬系大学企業説明会に三重県薬剤師会、三重県薬事工業会と共同出展
平成19年12月	みえ福祉用具フォーラム 2007 を開催
平成20年1月	GNI・RIT 海外医療・健康・福祉関連企業招へい事業
平成20年2月	三重大学産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成20年3月	伊勢市産業支援センター開所

平成20年度（2008年度）

平成20年4月	鈴鹿医療科学大学に薬学部設置
平成20年5月	全国バイオクラスター交流会参加（山形県鶴岡市）
平成20年6月	北米先進地視察（カナダ・コルテス島、BIO2008 サンディエゴ、アリゾナ大学など）
平成20年6月～ 平成21年3月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェトロに委託）
平成20年6月	全国産学官連携会議（京都）に三重大学、津市が共同出展 みえメディカル研究会総会を開催
平成20年7月	天然資源活用地域連携会議を開催 国際バイオエキスポに三重大学と共同出展 三重大学産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成20年8月	メディカルバレーフォーラム2008を開催 薬学生インターンシップ受入（2名）
平成20年9月	産学官のメンバーで富山県、北海道の取組をベンチマーキング
平成20年10月	医療・健康・福祉産業ミッション（中国瀋陽・大連・天津） バイオジャパン2008へ共同出展（三重大学、津市、バイオコンバレー、NPOバイオものづくり中部） みえメディカルバレー構想第2期実施計画策定
平成20年12月	みえ福祉用具フォーラム2008を開催
平成21年1月	統合医療ワーキンググループ活動開始 三重大学産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成21年2月	全国バイオクラスター交流会参加（神戸市） 中国（瀋陽）医療・健康・福祉関連企業・有識者招へい事業
平成21年2月～ 3月	天然資源活用セミナー開催（熊野市、伊勢市）

平成 21 年度 (2009 年度)

平成 21 年 4 月	メディカルバレーふるさと雇用再生特別基金事業開始
	三重大学大学院地域イノベーション学研究科設置
	産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」(三重大学産学官伊賀研究拠点) 開設
平成 21 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい(意見交換、県内施設見学)
平成 21 年 6 月	全国産学官連携会議(京都)に三重大学、津市が共同出展
	みえメディカル研究会総会を開催
平成 21 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 21 年 8 月	産学官のメンバーで沖縄県の取組をベンチマーキング
平成 21 年 9 月	緊急雇用創出事業により、アンケート調査
	市町、商工会・商工会議所対象の天然資源活用意向調査
	三重大学先端テクノロジー研究会を伊賀研究拠点で開催
平成 21 年 10 月	ウェルネスの旅を開催
	バイオジャパン 2009 への共同出展(三重大学、津市、ピオコンバレー、NPO バイオものづくり中部)
	医療・健康・福祉産業ミッション(中国瀋陽・本溪)
平成 21 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
	東海薬剤師学術大会でポスターセッション出展(岐阜市)
平成 21 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2009 を開催
平成 22 年 1 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 22 年 2 月	全国バイオクラスター交流会参加(沖縄県那覇市)
	メディカルバレーフォーラム 2010 を開催(基調講演: 茂木健一郎氏)
	三重大学と瀋陽薬科大学が学術協力・交流に関する一般協定書を締結
	三重大学と瀋陽薬科大学が学生交流に関する一般協定書を締結
平成 22 年 3 月	ウェルネスの旅を開催

平成 22 年度 (2010 年度)

平成 22 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい（意見交換、県内施設見学）
	ゆめぼりす伊賀クリエイトランド（薬事産業の集積工業団地）が完売
平成 22 年 6 月	第 9 回産学官連携推進会議ー科学・技術フェスタ in 京都ーに三重大学、津市が共同出展
	みえメディカル研究会総会を開催
	中国遼寧省食品薬品监督管理局技術審査センター職員 3 名来県（意見交換、県内視察）
	第 1 回地域治験ネットワーク連絡会議を三重県で開催（参加地域：静岡、大阪、福岡、三重）
平成 22 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
	三重大学医学部附属病院に統合医療鍼灸外来開設
	中国駐名古屋総領事館総領事との意見交換会
平成 22 年 8 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 22 年 8 月	薬科大学学生インターンシップ受入（5 名）
平成 22 年 9 月	メディカルバレーフォーラムを開催
	バイオジャパン 2010 に三重大学、津市、医食同源みえが共同出展
平成 22 年 10 月	医療・健康・福祉産業ミッション（中国瀋陽・本溪）
	こころとからだの健康ツーリズム・フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2010 を開催
	ウェルネスの旅を開催
平成 23 年 1 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 23 年 2 月	全国バイオクラスター交流会を津市で開催
	伊勢調理師協会等による「地元天然資源を活用した医食同源料理～伊勢食道～」の開発
	関西バイオビジネスマッチング 2011 に県内ベンチャー企業が出展
平成 23 年 3 月	メディカルフォーラム in 伊賀を開催

平成23年度(2011年度)

平成23年7月	みえライフイノベーション推進事業（医療・福祉機器等の研究開発・実用化の促進事業）開始
	みえメディカル研究会総会を開催
	三重大学発産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成23年8月	薬科大学学生インターンシップ受入（7名）
平成23年10月	健康産業シンポジウム（主催：北海道バイオ産業クラスター・フォーラムほか）にパネリストとして参加
	ウェルネスの旅を開催
	三重大学と瀋陽薬科大学がワークショップ開催
	全国バイオクラスター交流会参加（横浜市）
平成23年11月	プラチナ社会研究会食品機能性分科会参加（主催：新潟県、三菱総研）
	みえ統合医療講演会を多気町で開催
	尾鷲セラピスト養成講座開講
平成23年12月	みえ福祉用具フォーラム2011を開催
平成24年1月	タイ薬事産業視察（三重県薬事工業会主催）
	三重県とタイ国食品薬品庁が行政窓口確認に関する覚書を締結
平成24年2月	メディカルバレーフォーラムを開催
	メディカルバレーフォーラムにメディカルバレープロジェクトの取組等を紹介する展示会を併催
	三重大学発産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成24年3月	PMDAセミナーを三重大学で開催
	「尾鷲セラピストと行く熊野古道」ツアー開催
	みえメディカルバレー構想第3期実施計画策定

平成24年度 (2012年度)

平成24年6月	メディカル・デバイス産業振興協議会にオブザーバーとして参加
	インターフェックスジャパン (東京) 出展
平成24年7月	みえライフイノベーション総合特区指定 (7月25日)
	台湾経済産業交流ミッション (三重県主催)
	三重県と台湾行政院衛生署食品薬物管理局が行政窓口確認に関する覚書を締結
平成24年8月	三重県・岐阜県知事対談による医療・福祉機器分野での産業連携合意
	薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (10名)
	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入 (4社13名)
平成24年10月	みえライフイノベーション総合特区推進本部発足
	鈴鹿医療科学大学「医療福祉機器開発センター」開所 (10月19日)
	「サイバーダイイン(株)中部・近畿拠点」開所 (10月19日)
平成24年11月	食品の機能性表示に関する情報連絡会 (北海道大学) 参加
	治験推進シンポジウムを開催
	みえライフイノベーション総合特区計画認定 (11月30日)
平成24年12月	中部地区医療・バイオ系シーズ発表会 (名古屋) 出展
	みえ福祉用具フォーラム2012を開催
	第1回三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (名古屋市)
平成25年1月	マレーシア薬事産業視察 (三重県薬事工業会主催)
	メディカルバレーフォーラムを開催
平成25年2月	第2回三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (岐阜市)
	三重大学発メディカルバレーセミナーin伊賀を開催
平成25年3月	静岡がん会議2012参加
	メディカルバレーフォーラムin伊賀を開催

平成25年度 (2013年度)

平成25年4月	みえライフイノベーション総合特区基盤整備事業、新産業創出支援事業（薬農連携）開始
平成25年6月	三重大学先端研究シンポジウムを開催（大阪）
平成25年7月	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催（津市）
	三重先端がんフォーラムを開催（三重大学・鈴鹿医療科学大学主催）
	インターフェックスジャパン出展（東京）
	三重ものづくり企業と医療機器メーカーとの交流・展示会 in 本郷を開催（東京）
	三重県・広島県知事対談による医療・福祉機器分野での産業連携合意
平成25年8月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入（5名）
	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入（3社5名）
	ブラジル経済ミッション（三重県主催）
平成25年9月	みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）7カ所設置（総合特区調整費活用）
	MieLIP キックオフフォーラムを開催
	鈴鹿ロボケアセンター開設
平成25年10月	BioJapan2013（横浜市）、HOSPEXJapan2013（東京）出展
平成25年11月	臨床研究・治験推進シンポジウムを開催
平成25年12月	みえ福祉用具フォーラム2013を開催
平成26年1月	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催（岐阜市）
	インドネシア薬事産業視察（三重県薬事工業会主催）
	三重県とインドネシア食品医薬品監督局が行政窓口確認に関する覚書を締結
	医療機器開発に係る広島県との連携に向けた打ち合わせ実施（津市）
平成26年2月	みえライフイノベーション総合特区フォーラムを開催
	PMDAによる薬事戦略相談会を開催（津市）
	メディカルバレーフォーラム in 伊賀を開催
	MieLIP 多気健康フォーラムを開催
	福祉用具・ものづくりイノベーションフォーラムを開催
	尾鷲セラピスト健康セミナーを開催

平成 26 年 3 月	健康まちづくりセミナーを開催（鳥羽市）
	みえライフイノベーション総合特区フォーラム in 東京・大阪 を開催（東京、大阪）
	みえライフイノベーション総合特区成果発表会を開催

平成26年度 (2014年度)

平成26年4月	健康寿命延伸産業育成事業、薬用植物供給体制構築事業開始
平成26年5月	三重ものづくり企業と医療機器メーカーとの交流・展示会 in 本郷を開催 (東京)
平成26年6月	三重大学先端研究シンポジウムを開催 (大阪)
平成26年7月	インターフェックスジャパン出展 (東京)
	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (津市)
	三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (広島市)
平成26年8月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (10名)
	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社1名)
	三重県北米経済産業交流ミッション
	三重県とワシントン州政府が覚書を締結
平成26年9月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (三重テラス)
平成26年10月	統合型医療情報データベース構築着手 (三重大学医学部附属病院)
	韓国医薬品・医療機器産業連携可能性調査
平成26年11月	みえ福祉用具フォーラムを開催 (津市)
	三重バイオフィォーラム2014を開催 (志摩市)
	三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (津市)
平成26年12月	健康・省エネシンポジウム in みえを開催 (津市)
	三重大学先端研究シンポジウムを開催 (東京)
	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (三重テラス)
	みえライフイノベーションフォーラムを開催 (津市)
平成27年1月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (三重テラス)
	欧州薬事産業視察 (スイス・イタリア) (三重県薬事工業会主催)
平成27年2月	三重大学発産学官連携セミナーin伊賀を開催 (伊賀市)
	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (岐阜市)
平成27年3月	みえライフイノベーション総合特区地域協議会を地域版次世代ヘルスケア産業協議会として位置付け、設置
	食バリューチェーン推進事業、県産材活用健康住宅普及事業開始

平成27年度 (2015年度)

平成27年4月	「みえ健康住宅産業振興フォーラム」設立
平成27年5月	食の機能性評価相談窓口設置 (28年3月まで)
平成27年6月	経済産業省・健康寿命延伸産業創出推進事業に「亀山QOL支援モデル事業」が採択
平成27年7月	「健康・省エネ住宅推進委員会」委員に知事就任 三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (大阪市)
平成27年8月	医療機器関連セミナーを開催 三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (津市) 薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社1名) 薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (8名) ビジネスマッチングミーティングを開催 (東京)
平成27年9月	国立循環器病研究センターが取り組む「かるしお制度」認定セミナーを開催 医療機器開発・販路開拓マッチング商談会 (大阪医療機器協会主催) に出展 (大阪市)
平成27年10月	健康・省エネシンポジウム in みえを開催 (津市) MieLIP 津セミナーを開催 (津市)
平成27年11月	みえ福祉用具フォーラム2015を開催 (津市) 日本GE&三重県内企業技術交流・商談会を開催 (四日市市)
平成27年12月	日本GE&三重県内企業技術交流・商談会を開催 (東京) 広島・三重・岐阜ものづくり企業展示・交流会 in 本郷を開催 (東京)
平成28年1月	MieLIP 津セミナーを開催 (津市)
平成28年2月	メディカルバレーフォーラム in 伊賀を開催 第14回 三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催 三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (名古屋市) 三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (大阪市)
平成28年2月～ 3月	米国ワシントン州ヘルスケア産業連携可能性調査
平成28年3月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (三重テラス) 第2回主要地域治験ネットワーク連携会議参加 (大阪市) みえメディカルバレー構想第4期実施計画策定

平成28年度 (2016年度)

平成28年7月	薬用植物セミナーを開催 (四日市市)
平成28年8月	第1回みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催(東京)
	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社2名)
	薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (7名)
	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (名古屋市)
平成28年9月	健康・省エネシンポジウム in みえを開催 (津市)
	三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (大阪市)
平成28年10月	フランス・ヴァルドワース県代表団来県 (知事表敬、ミルボンゆめが丘工場視察)
	認知症サミット in Mie が開催 (四日市市)
平成28年11月	三重大学地域イノベーション推進機構設置
	みえ福祉用具フォーラム2016を開催 (津市)
	薬用植物セミナーを開催 (四日市市)
平成29年1月	第2回みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (東京)
	広島・三重・岐阜ものづくり企業展示・交流会 in 本郷を開催 (東京)
	第3回主要地域治験ネットワーク連携会議参加 (福岡市)
	三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (広島市)
平成29年2月	第15回三重大学産学官連携セミナーin伊賀を開催
平成29年3月	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催 (名古屋市)
	みえライフイノベーション総合特区計画の5年間の延長認定 (3月27日)
	住まいと健康セミナーを開催 (津市)

平成29年度（2017年度）

平成 29 年 7 月	岐阜県・三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 （大阪市）
	薬用植物に関するセミナー及び相談会を開催（四日市市）
平成 29 年 8 月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社3名)
	薬科大学学生県職員インターンシップ受入（9名）
平成 29 年 9 月	第1回認知症ケア製品等展示会を開催（津市）
平成 29 年 10 月	台湾・高雄医科大学訪問（三重大学でのシンポジウムに合わせて） （万協製薬、みえテクノエイドセンター視察）
平成 29 年 11 月	みえ福祉用具フォーラム 2017 を開催（津市）
	フランス・ヴァルドワース県代表団来県（知事表敬、御木本製薬視察）
	「医療×グローバルシンポジウム」（一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）主催）出展（東京）
	新価値創造展 2017（独立行政法人中小企業基盤整備機構主催）に出展（東京）
平成 29 年 12 月	みえ健康・省エネ住宅シンポジウム 2017 を開催（津市）
平成 30 年 1 月	タイ薬事事情視察（三重県薬事工業会主催）
	第16回三重大学発産学官連携セミナーin伊賀を開催
	第2回認知症ケア製品等展示会を開催（津市）
平成 30 年 2 月	岐阜県・三重県・広島県医療福祉機器等開発連携会議を開催 （四日市市）
平成 30 年 3 月	第4回主要地域治験ネットワーク連携会議参加（広島市）
	統合型医療情報データベース参加9病院において約33.2万人分の医療情報を収集

平成30年度 (2018年度)

平成30年4月	三重大学地域創生戦略企画室設置
平成30年7月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社1名)
平成30年8月	1都4県(三重県・東京都・福島県・岐阜県・広島県)医療福祉機器等開発連携会議を開催(東京都)
	薬科大学学生県職員インターンシップ受入(10名)
平成30年9月	みえライフイノベーション総合特区セミナー「三重県内医療情報データベースの利活用に向けて」を開催(三重テラス)
平成30年10月	ME-BYO Japan2018 (ME-BYO サミット神奈川実行委員会主催) 出展(横浜市)
平成30年11月	第1回認知症ケア製品等展示会を開催(津市)
	みえ福祉用具フォーラム2018を開催(津市)
	医療機器技術マッチングサイト交流セミナー(一般社団法人日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)主催)出展(東京)
平成30年12月	医療機器展示会2018 in 三重(株式会社スズケン三重営業部主催)出展(四日市市)
平成31年1月	第2回認知症ケア製品等展示会を開催(津市)
平成31年2月	1都4県(三重県・東京都・福島県・岐阜県・広島県)医療福祉機器等開発連携会議を開催(東京都)
	第5回主要地域治験ネットワーク連携会議参加(津市)

令和元年度（2019年度）

令和元年6月	スズケンメディカルフェア 2019in 三重（株式会社スズケン三重営業部主催）出展（津市）
令和元年8月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入（2社4名）
	薬科大学学生県職員インターンシップ受入（5名）
	1都4県（三重県・東京都・福島県・岐阜県・広島県）医療福祉機器等開発連携会議を開催（広島市）
令和元年10月	第10回 ヘルスケア・医療機器 開発展 [東京] -MEDIX-（リード エグジビション ジャパン(株)主催）出展（千葉市）
令和元年11月	医療機器技術マッチングサイト交流セミナー（一般社団法人日本医療機器テクノロジー協会（MTJAPAN）主催）出展（東京）
	みえ福祉用具フォーラム 2019 を開催（津市）
	第1回認知症ケア製品等展示会を開催（津市）
令和元年12月	介護ロボット三重フォーラム 2019 を開催（鈴鹿市）
令和2年1月	第6回主要地域治験ネットワーク連携会議参加（大阪市）
	東京大学、株式会社日本データサイエンス研究所、合同会社ネコリコが技術開発を進めている「AIと電力データを用いたフレイル検知」の東員町における実証実験の実施に向け、三重県、三重大学も加わった「介護予防に向けたAI・データ活用研究会」が設立
	第2回認知症ケア製品等展示会を開催（津市）
令和2年2月	1都4県（三重県・東京都・福島県・岐阜県・広島県）医療福祉機器等開発連携会議を開催（東京）
	ベトナム薬事情視察（三重県薬事工業会主催）
令和2年3月	みえメディカルバレー構想～みえヘルスケアインダストリー5.0～策定

7 第4期実施計画で設定した事業目標等に係る実績

第4期実施計画で設定した事業目標等に係る平成30年度末時点での実績は、次のとおりです。

(事業目標)

○ヘルスケア分野の製品・サービス開発数

県内事業者等が開発したヘルスケア分野の製品・サービス件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計34件

→平成28年度から30年度までの実績値 累計26件

(出典：三重県医療保健部ライフイノベーション課調べ)

○新市場開拓機会創出数

県内事業者等が開発したヘルスケア分野の製品・サービスの商談件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計800件

→平成28年度から30年度までの実績値 累計892件

(出典：三重県医療保健部ライフイノベーション課調べ)

○治験受入件数

みえ治験医療ネットワークに登録している医療機関で、NPO法人みえ治験医療ネットを介して受け入れた治験契約数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計100件

→平成28年度から30年度までの実績値 累計143件

(出典：NPO法人みえ治験医療ネット調べ)

○統合型医療情報データベース活用数

統合型医療情報データベースを活用した製品・サービス開発の取組数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計8件

→平成28年度から30年度までの実績値 累計0件

(出典：三重大学医学部附属病院調べ)

○実証フィールド活用件数

企業がヘルスケア分野の新たなサービスや試作品の検証、製品のブラッシュアップ等を行うために実証フィールドを活用した件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計20件

→平成28年度から30年度までの実績値 累計28件

(出典：三重県医療保健部ライフイノベーション課調べ)

(参考指標)

○医薬品生産金額

平成 26 年：108,232 百万円（年報）

平成 30 年：129,911 百万円（年報）

（出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査）

○医療機器生産金額

平成 26 年：4,139 百万円（年報）

平成 30 年：7,207 百万円（年報）

（出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査）

○新市場開拓件数

平成 26 年度：28 件

平成 30 年度：189 件

（出典：三重県医療保健部ライフイノベーション課調べ）

8 みえライフイノベーション総合特区計画に掲げる数値目標の状況

みえライフイノベーション総合特区計画に掲げる数値目標の状況は、次のとおりです。

(1) 平成24年11月30日認定計画（平成24年度から平成28年度まで）

	指標	年度	H24	H25	H26	H27	H28
(1)	統合型医療情報データベースの規模 (累計)	目標		10万人	30万人	30万人	30万人
		実績		0	0	6万人	20.9万人
		進捗度		0%	0%	20%	70%
(2)	医療・福祉現場ニーズの収集件数 (累計)	目標		800件	1,200件	1,600件	2,000件
		実績	788件	1,170件	1,519件	2,109件	2,438件
		進捗度		146%	127%	132%	122%
(3)	①医薬品生産金額 50%増加 (平成22年比・ 122,745百万円)	目標		131,553 百万円	141,419 百万円	159,096 百万円	184,118 百万円
		実績	125,289 百万円	118,114 百万円	108,232 百万円	101,824 百万円	103,937 百万円
		進捗度		90%	77%	64%	56%
	②医療機器生産金額 100%増加 (平成22年比・ 3,486百万円)	目標		3,603 百万円	4,323 百万円	5,404 百万円	6,972 百万円
		実績	1,470 百万円	4,044 百万円	4,139 百万円	4,467 百万円	5,495 百万円
		進捗度		112%	96%	83%	79%
(4)	①研究開発支援プラットフォームの 活用機関数 (県内) (累計)	目標		20機関	30機関	40機関	50機関
		実績	10機関	39機関	80機関	125機関	165機関
		進捗度		195%	267%	313%	330%
	②研究開発支援プラットフォームの 活用機関数 (県外) (累計)	目標		12機関	18機関	24機関	30機関
		実績	6機関	26機関	58機関	89機関	119機関
		進捗度		217%	322%	371%	397%
(5)	医療・健康・福祉分野企業（第2創業を含む）および 研究機関の立地件数（累計）	目標		20件	30件	40件	50件
		実績	10件	20件	32件	39件	53件
		進捗度		100%	107%	98%	106%

(2) 平成 29 年 3 月 27 日認定計画 (平成 29 年度から令和 3 年度まで)

※平成 30 年度末時点

	指標	年度	H29	H30	R1	R2	R3
(1)	統合型医療情報データベース を活用した製薬企業等との共 同研究契約の締結数 (累計)	目標	《定性的 評価》 情報収集 体制の 構築	1 件	2 件	3 件	4 件
		実績	《定性的 評価》 情報収集 体制の 構築完了	0 件			
		進捗度	—	0%			
(2)	M i e L I P を活用して製品 化されたヘルスケア分野の 製品・サービス数 (累計)	目標	8 件	17 件	27 件	38 件	50 件
		実績	8 件	19 件			
		進捗度	100%	112%			
(3)	①ヘルスケア分野の製品・サ ービスの創出に伴う新市場 開拓規模 (平成 28 年度見込 : 240 百万円)	目標	288 百万円	336 百万円	384 百万円	432 百万円	480 百万円
		実績	8,439 百万円	651 百万円			
		進捗度	2,930%	194%			
	②ヘルスケア分野の製品・サ ービスの創出に伴う新規雇 用創出数 (平成 28 年度見込 : 40 人)	目標	42 人	44 人	46 人	48 人	50 人
		実績	84 人	148 人			
		進捗度	200%	336%			
(4)	ヘルスケア分野企業 (第 2 創 業含む) および研究機関の立 地件数 (累計) (平成 28 年度見込 : 50 件)	目標	60 件	70 件	80 件	90 件	100 件
		実績	68 件	85 件			
		進捗度	113%	121%			

みえメディカルバレー構想
～みえヘルスケアインダストリー5.0～

令和2年3月

みえメディカルバレー推進代表者会議

事務局

三重県医療保健部ライフイノベーション課

〒514-8570 津市広明町13

電話 059-224-2331 FAX 059-224-2344

E-mail life@pref.mie.lg.jp